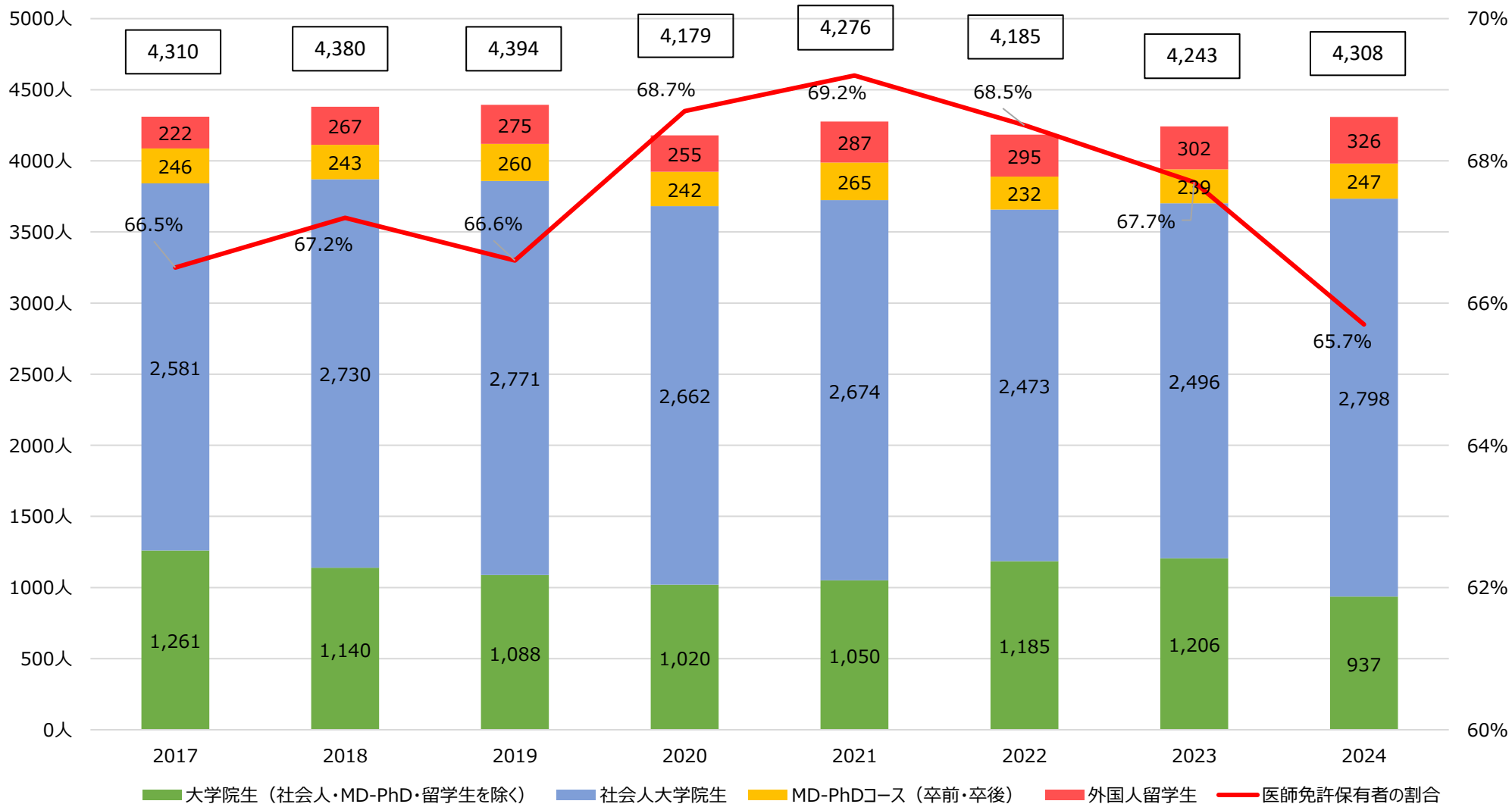


大学・大学病院の魅力向上・人材確保 のための調査・研究

全国医学部長病院長会議
研究・医学部大学院のあり方検討委員会
委員長 熊ノ郷 淳（大阪大学総長）

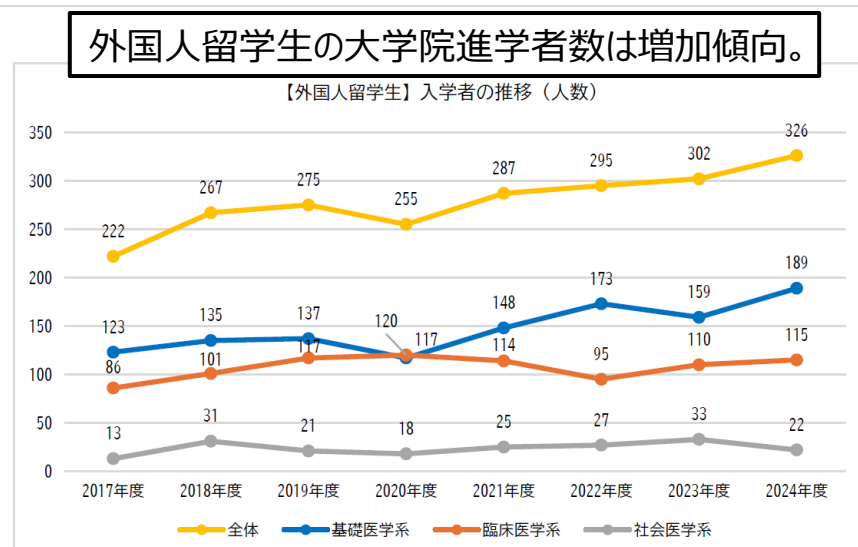
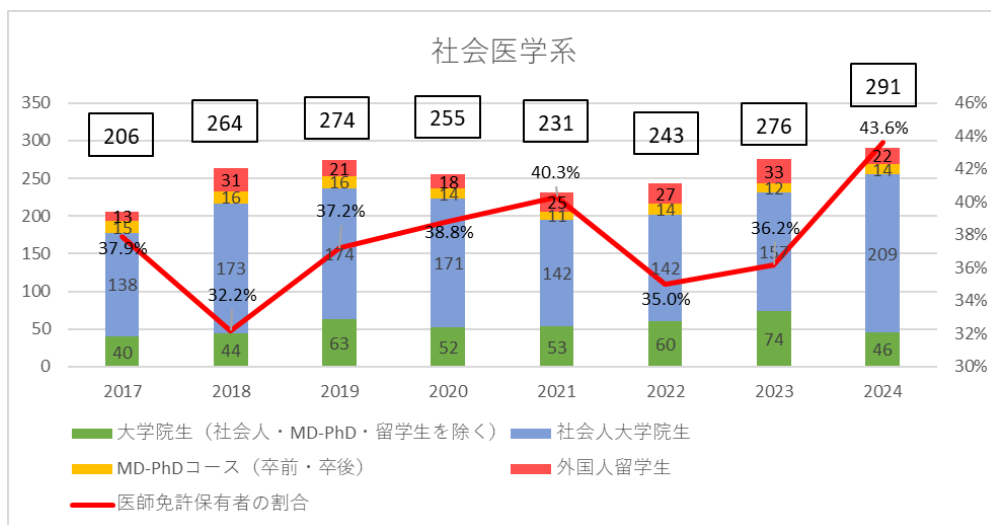
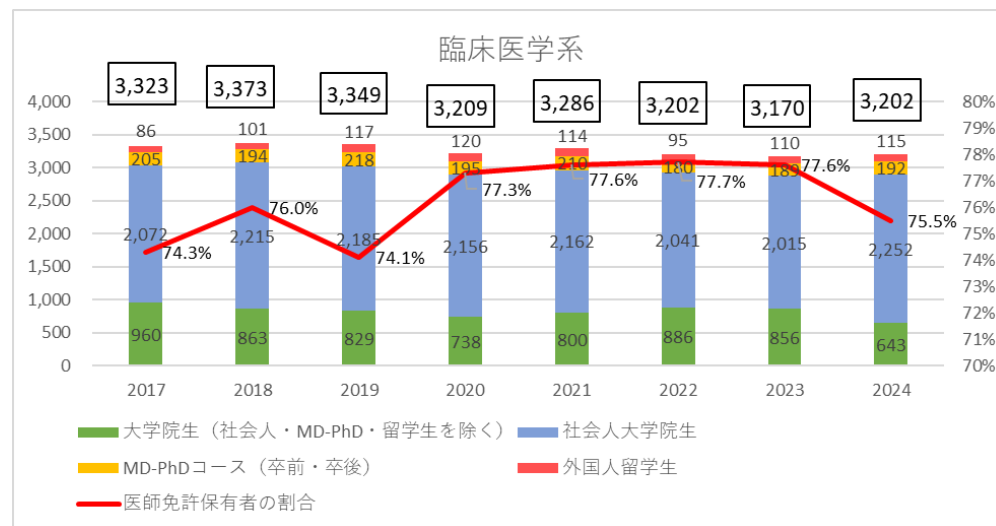
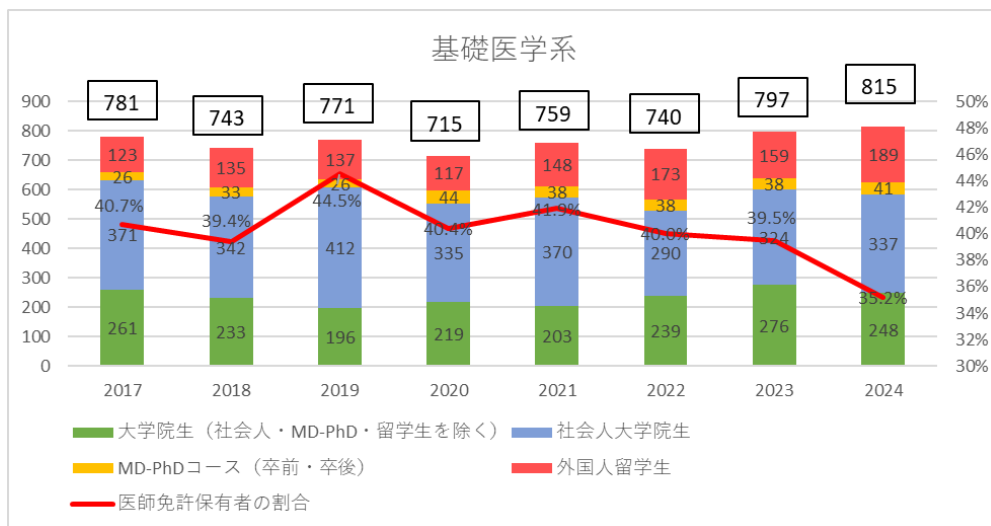
大学院博士課程への入学者内訳と推移

大学院（医学系研究科）への進学者数は4,000人から4,500人で概ね横ばいであり、医師免許保有者の割合も減少傾向にある。社会人大学院生が6割程度を占める。医師養成数は年々増加している中で、外国人留学生が増加傾向にある。



大学院博士課程への入学者内訳と推移（分野別）

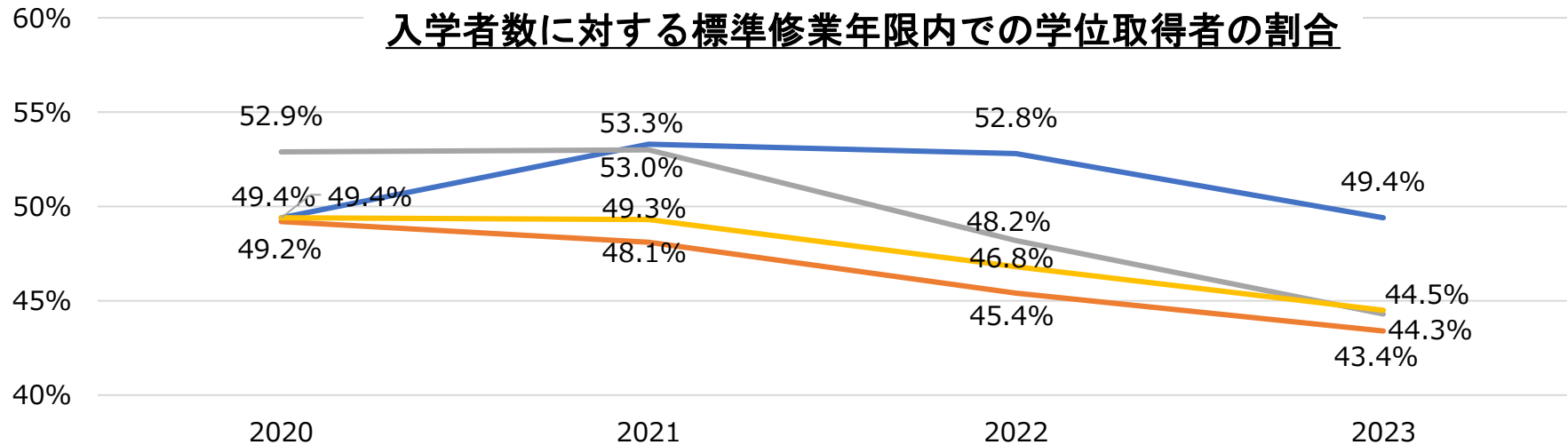
従来より、臨床医学系大学院への進学者数が大学院進学者数全体の多くを占めている。基礎医学系大学院への進学者数はやや増加傾向。外国人留学生の増加が要因と考えられ、日本人大学院生は横ばい傾向。臨床医学系大学院への進学者数はやや減少傾向にあるが、近年社会人大学院生が増加している。社会医学系大学院への進学者数は増加傾向にある。



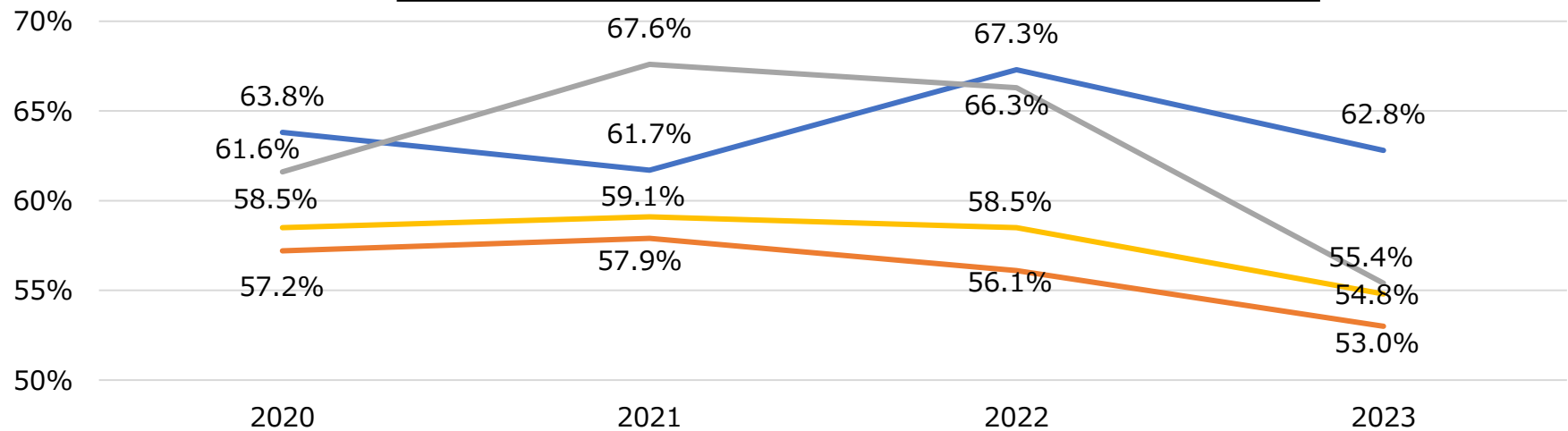
標準修業年限（４年）内での学位取得の状況

標準修業年限での学位取得者は半分程度であり、特に臨床医学系で少ない傾向。

入学者数に対する標準修業年限内での学位取得者の割合



学位取得者のうち、標準修業年限内での取得者の割合



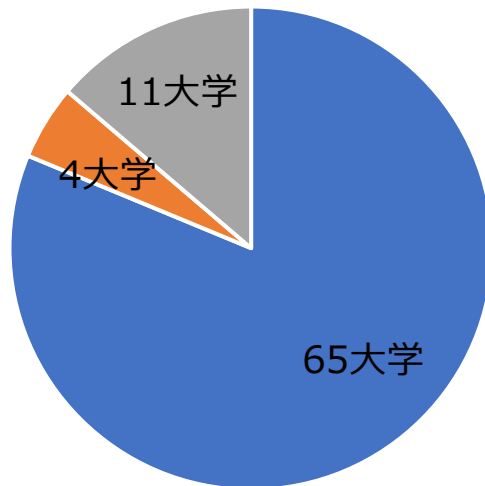
基礎医学系 臨床医学系 社会医学系 全体

基礎医学系、臨床医学系：76大学 社会医学系：66大学

学位審査の方法と大学院教育の充実

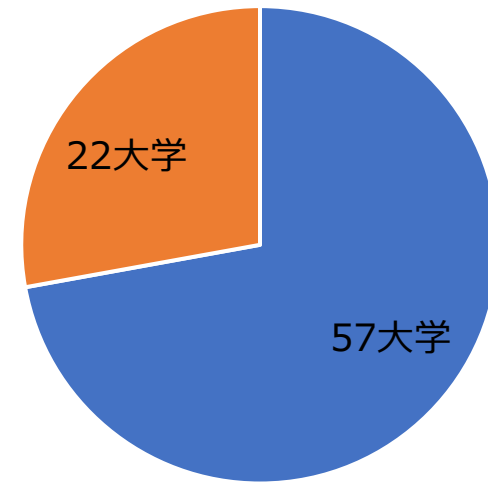
15大学で博士学位請求論文（いわゆるシーシス）での学位審査を実施している。
また7割以上の大学で専門分野以外の学修の機会の提供の取組が実施されている。

学位審査の方法



■ ジャーナルアクセプト後 ■ 学位請求論文（いわゆるシーシス） ■ 双方

専門分野以外の学修の機会



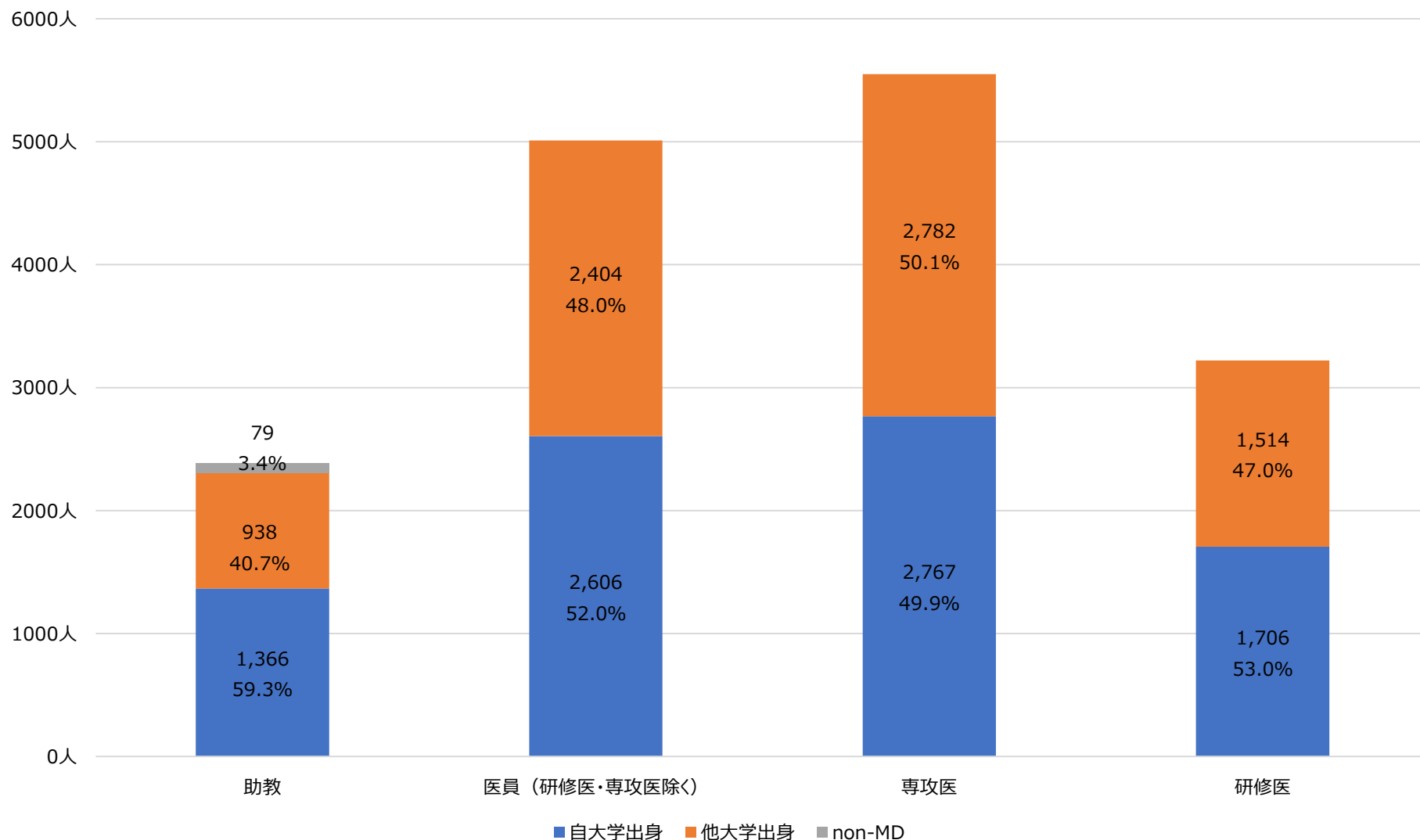
■ あり ■ なし

【学修の内容】・他研究室、他専攻の講義の履修 ・他学部、他大学と連携したプログラムの実施
・異分野融合、交流を促すカリキュラムの設置 ・複数分野の教員が指導に関与
・国内外、学内外での講演会や講義等の参加 ・他分野での研究室ローテーションの実施
・国内外の他大学、研究機関への研究指導委託や派遣制度の導入 ・副専攻の履修の必須化 等

大学病院における新規採用の状況

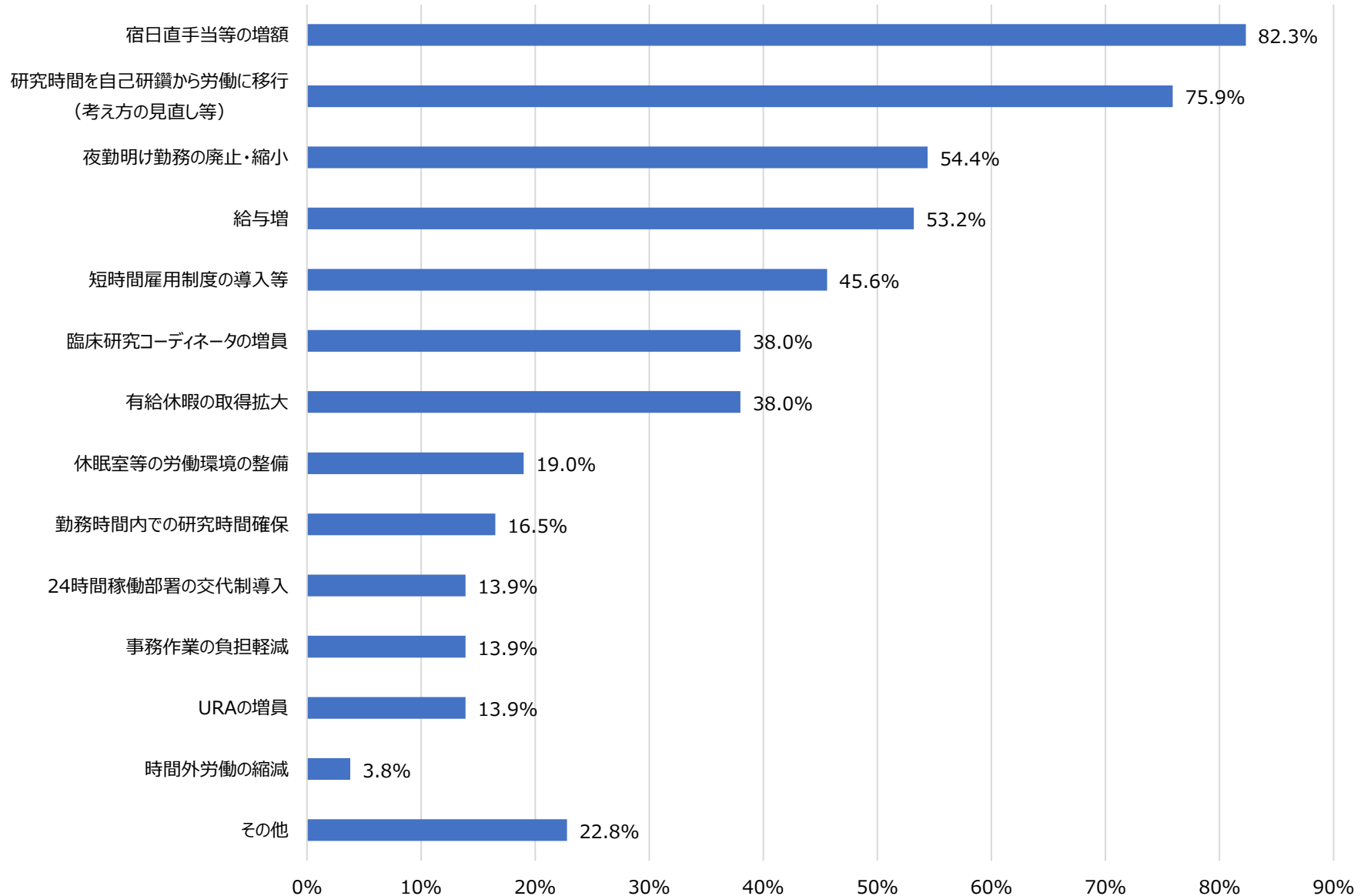
医員、専攻医、研修医は自大学出身者が半数程度であるが、助教は自大学出身者が6割程度であり、多い傾向にある。

職位別出身大学の状況（2024年度）



大学病院における医師確保の取組

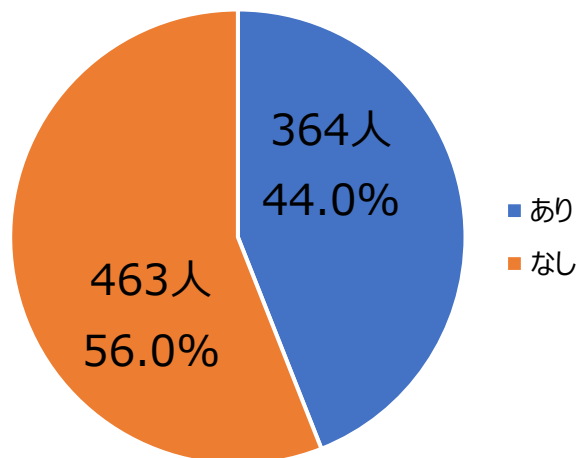
各大学病院で様々な人材確保の取組が実施されている。手当の増額や、研究の位置づけの変更などの取組が多い傾向。



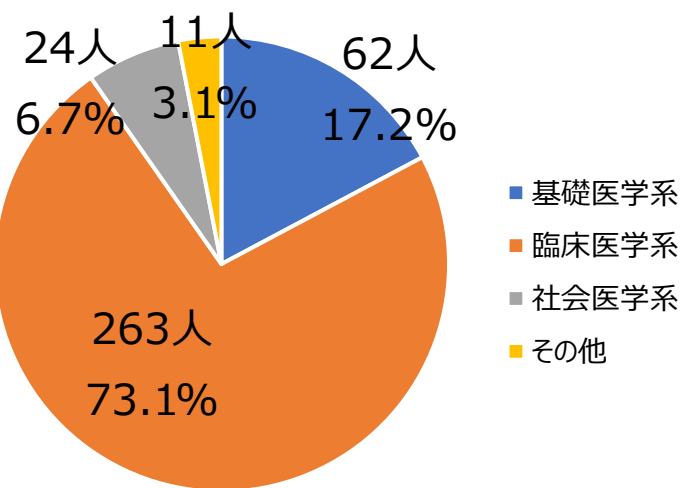
医学生への大学院進学に関する個人調査（対象：5年生370人 6年生457人）

医学生の大学院進学希望者は4割程度であり、多くが専門研修終了後に希望していることから、専門医志向が高まっていることが示唆される。

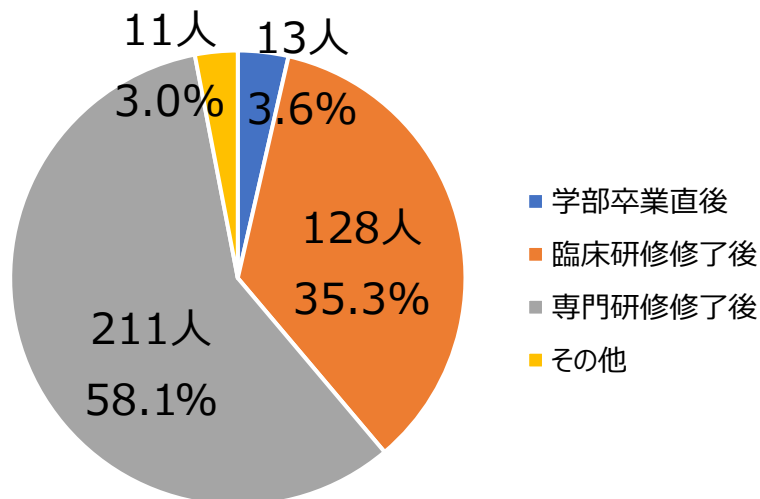
大学院への進学希望



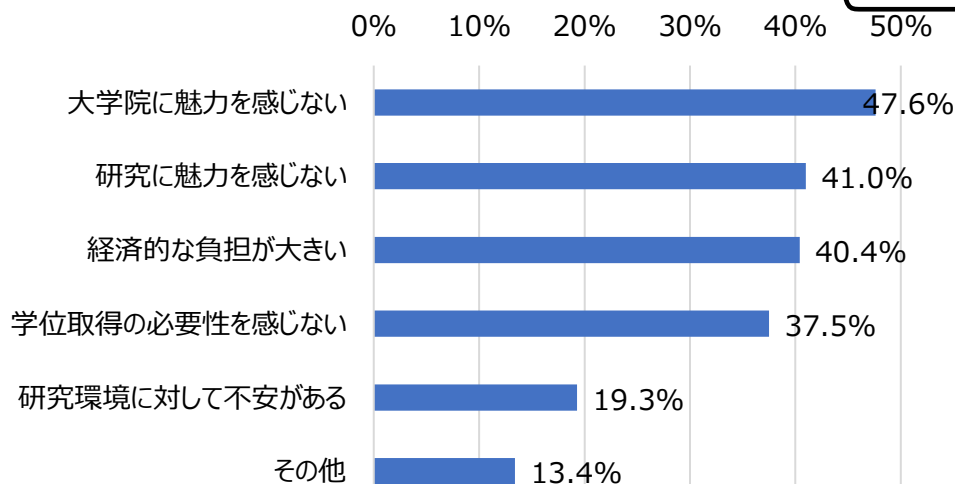
希望分野



入学希望時期



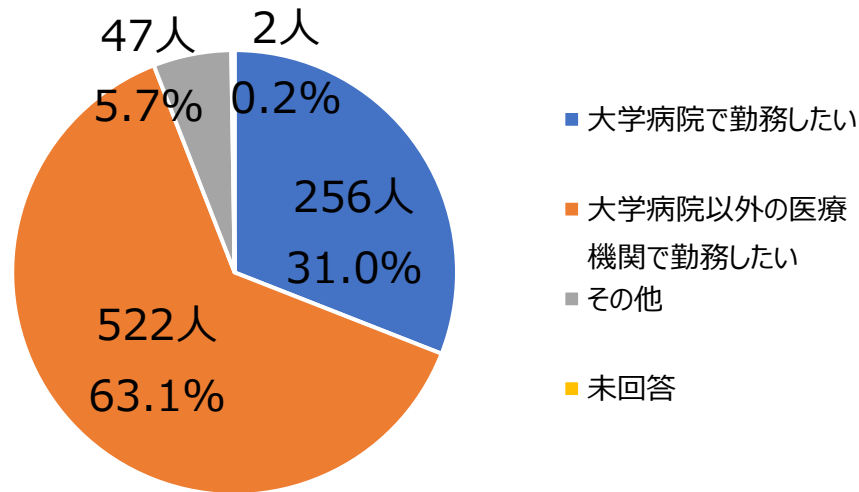
進学を希望しない理由



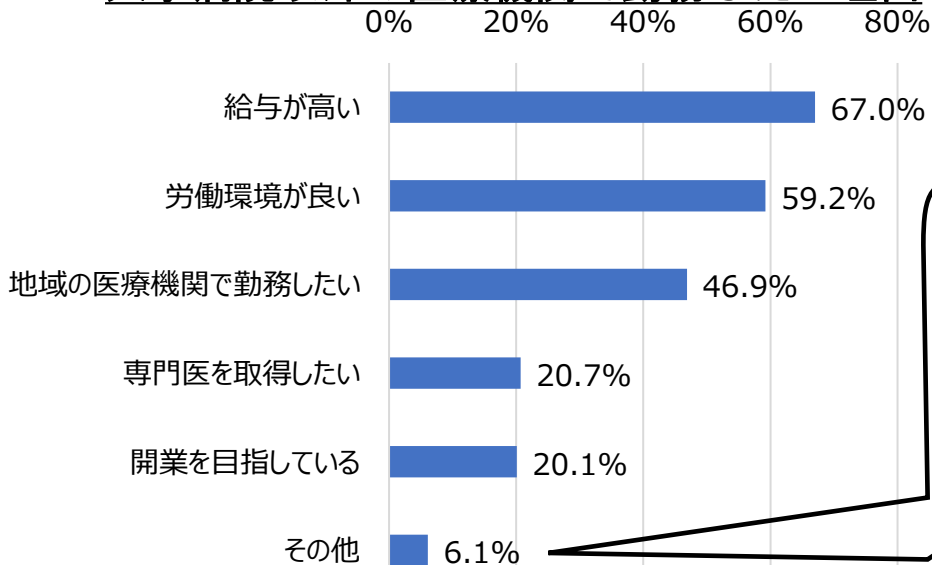
【その他の理由】
 ・臨床を長期間離れることに不安がある。
 ・大学院が何をする場所かよくわからない。
 ・地域枠など制度上の制約がある。
 等

医学生への大学病院勤務に関する個人調査（対象：5年生370人 6年生457人）

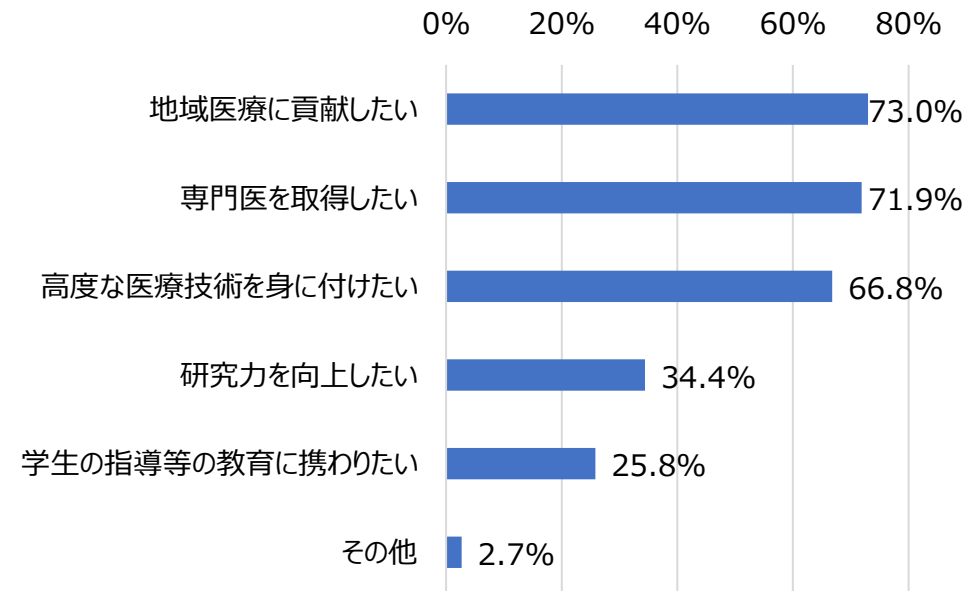
大学病院で勤務したいと考えている医学生は3割程度であり、研究や教育に魅力を感じている医学生は
 その中で2割から3割程度しかいない。また、給与や労働環境などから大学病院以外の医療機関で勤
 務したいと考えている医学生が多い傾向。



大学病院以外の医療機関で勤務したい理由



大学病院で勤務したい理由



【その他の理由】

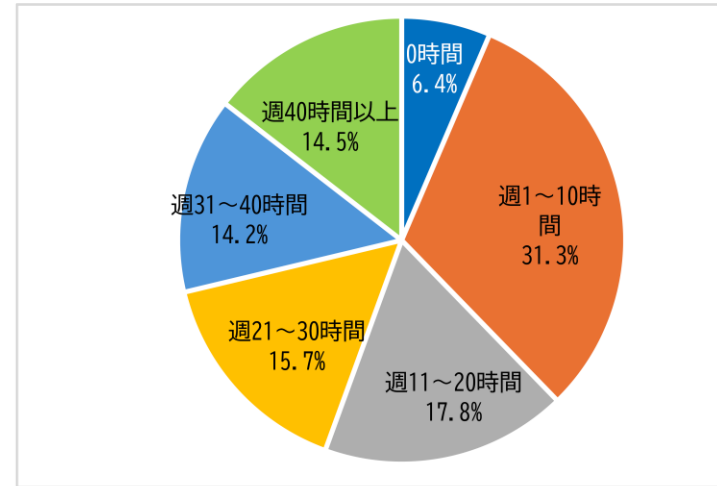
- ・common diseaseやその手技を経験したい
- ・大学病院のバイト前提の収入に疑問
- ・大学病院は医師が多く、その分裁量が小さい
- ・子育てと両立しにくい
- ・診療に専念したい
- ・医系技官を目指したい 等

大学院生への研究時間に関する個人調査 (1,098人)

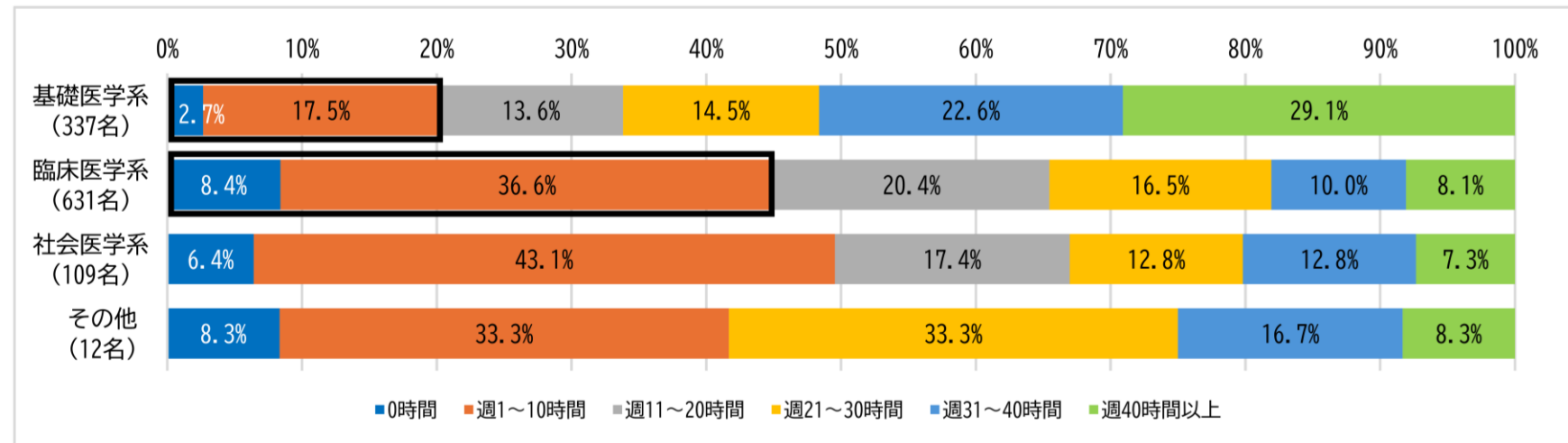
大学院生であっても研究時間が週10時間未満の医師が35%以上いる。分野別では、基礎医学系で2割程度、臨床医学系、社会医学系は4割強から5割弱で研究時間を週10時間以上確保できていない。

研究時間の状況

	回答数	
0 時間	70	6.4%
週 1～10 時間	341	31.3%
週 11～20 時間	194	17.8%
週 21～30 時間	171	15.7%
週 31～40 時間	155	14.2%
週 40 時間以上	158	14.5%
総計	1,089	



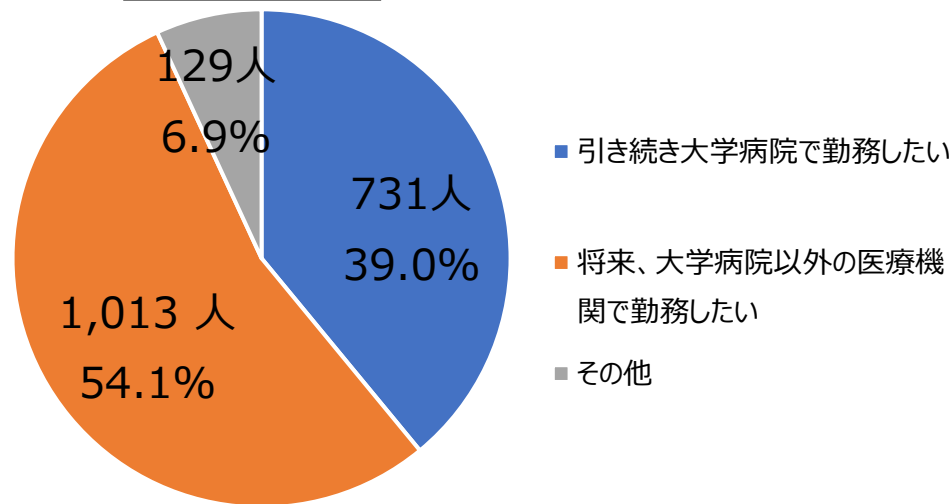
(分野別)



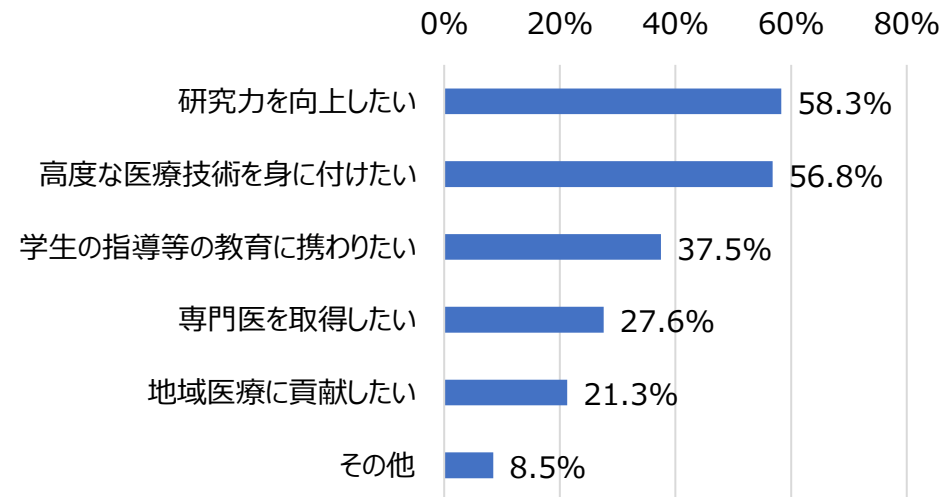
大学病院に勤務する医師への将来の勤務先に関する個人調査 (助教870人 医員303人 専攻医244人 研修医256人 その他(講師以上) 206人)

大学病院に勤務する医師でも、将来は他の医療機関で勤務したいと考えている医師が多い。その理由としては労働環境や給与など待遇面が挙げられている。

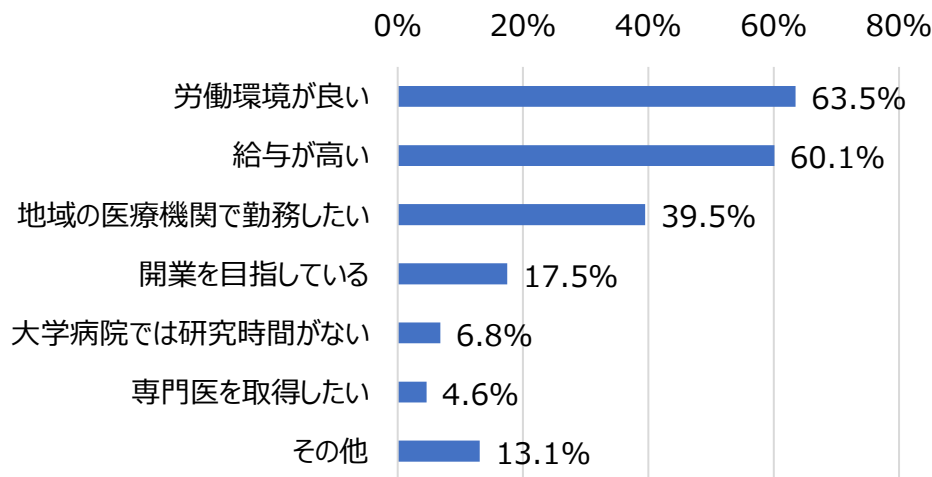
将来の勤務先



大学病院で勤務したい理由



大学病院以外の医療機関で勤務したい理由



【その他の理由】

(大学病院で勤務)

- ・教育に携わりたい ・研究をしたい ・高度先進医療に携わりたい
- ・収益に惑わされない医療を提供したい ・症例が豊富
- ・医師の数が多く業務分担できる ・刺激が多い
- ・幅広い地域医や学会と交流したい 等

(大学病院以外の医療機関で勤務)

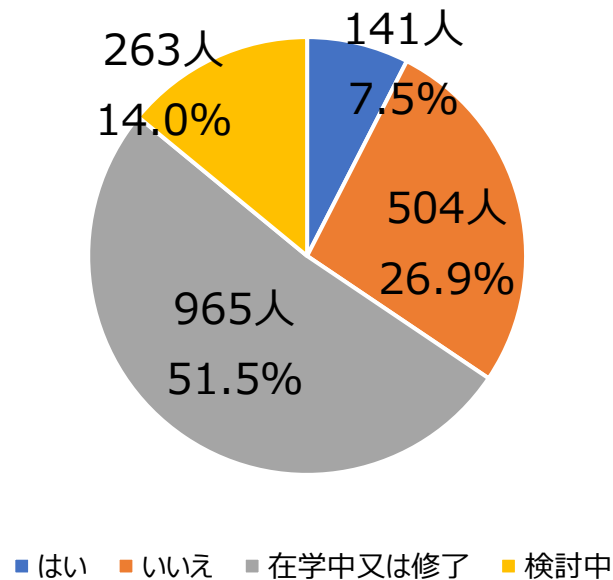
- ・診療をメインにしたい ・大学病院ではやりがいを感じない
- ・大学病院では教育研究の時間が確保できず、診療に忙殺される
- ・給与のミスマッチ ・職務以外の時間を作れない 等

大学病院に勤務する医師への大学院進学に関する個人調査

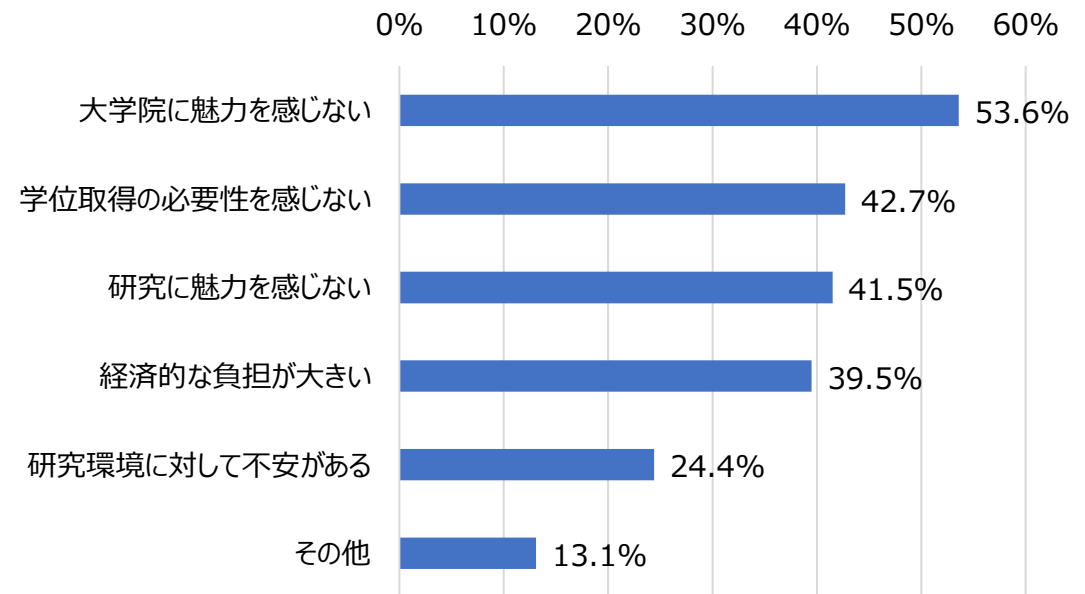
(助教870人 医員303人 専攻医244人 研修医256人 その他(講師以上) 206人)

大学病院に勤務している医師でも4人に1人は大学院進学を希望しておらず、その理由としては大学院、学位取得、研究への魅力が挙げられている。

大学院進学の希望



希望しない理由



【その他の理由】

・子育てとの両立が困難 ・診療から離れたくない ・入学しても研究時間が確保できない ・年齢 等

まとめ

- 医学系研究科博士課程の進学者数は概ね横ばいであり、医師養成数が増加している中で、留学生数が増加している。
- 標準修業年限での学位取得率は入学者数に対して50%を切っており、特に臨床医学系で小さいことから診療エフォートの増加により十分な研究時間を確保できていないことが原因と考えられる。一方で、社会人大学院生が増加していることも、標準修業年限での学位取得率が低下した要因として考えられる。なお、15大学で学位請求論文による学位審査を認めており、近年論文雑誌の審査に時間を要することを踏まえた配慮がなされているものと思料される。
- 大学では手当の増額や研究の労働時間への計上など、研究に専念できる環境整備に取り組んでいるが、医学生だけでなく、大学病院に勤務する医師も大学院進学や学位、研究に魅力を感じていないという回答が多かった。
- また、勤務先については、労働環境や処遇の観点から、大学病院以外の医療機関を選択したいと考えている医師、医学生が多く、大学院生の確保だけでなく、大学・大学病院の魅力を高め、人材確保に取り組む必要がある。